

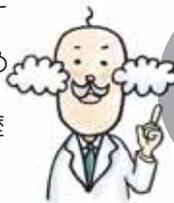
# 妻木

- TSUMAGI -

妻木町の窯業は平安時代後期から鎌倉時代に始まったとされています。

江戸初期までの約300年間、この地方を治めた妻木氏の居城であった妻木城跡や、1600年代からの歴史をもつ八幡神社の流鏑馬など、歴史を感じることできる町です。

現在は20軒以上の窯元があります。



今回は妻木地区を紹介するぞ！



私たちのまち・土岐市は  
 やきものまちです。『みのやき博士』の  
 『やきもの』と一緒にやきもの  
 知識を学んでいきましょう。

美濃焼振興室  
 (☎08312)



## 川又製陶所

川本豊 さん  
 桂志 さん

お話を聞かせてくれたのは

土岐市妻木町 3245-38  
 ☎6464

### 妻木の窯元

コーヒー碗皿・西洋食器などの生産が盛んだった妻木町。今はどんな様子なのかな？

#### 川又製陶所さんに聞いてみました！

現在はフリーカップやコーヒーカップなどを中心にさまざまな製品を作っています。輸出が減り、国内への販売が約9割を占めています。薄作りを生かし、底に透かしを入れることができます。最近ではさまざまな種類の透かしを入れることにも取り組んでいます。

#### Q

川又製陶所さんでは今もコーヒー碗皿や西洋食器を作っているの？

大正時代に粗製乱売防止、窯元の経済安定を図るために、妻木町にコーヒー碗皿などの専製権が与えられたそうです。昭和の初めごろは製品のほとんどが欧米諸国に向けての輸出用のコーヒー碗皿でした。薄作りの生地がドイツを中心に人気でした。薄さの理由は他にもあり、重さに課せられる関税を安くする目的もあったと言われています。

#### Q

なぜ妻木町でコーヒー碗皿などの食器を作っていたの？



生地が薄く(1mm以下)そのまま窯に入れて焼くとゆがんでしまうため、伏せ焼きをするなどさまざまな工夫をして生産しているんじや。

光が透けて、凸凹の模様が見えるね！



## 市長の部屋から

2月3日(日)

土岐市功労者表彰式が市役所で行われました。本市の発展に功績のあった20人の方々を表彰し、森林整備のために寄付を頂いた企業に感謝状を贈呈しました。



本市は豊かな自然と美濃焼の伝統を守りながら、今日まで発展してきました。近年では交通アクセスを生かした企業誘致が進み、地場産業の振興とともに地域の活性化が進められています。



また、本年は新庁舎での業務の開始や、西部こども園が開園するほか、駅前広場整備などの大型事業が順調に進み、皆さまが誇れる土岐市となることを期待しています。

本日、受賞された皆さまには、今後も豊富な経験と高い見識を生かしたリーダーシップを発揮していただき、本市発展のためにより一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

土岐市長 加藤靖也